

## 『日本語／日本語教育研究』 執筆要項

### 1. 書式

- ・原稿の本文は日本語とする。
- ・原稿は横書きとする。
- ・原稿は、A4 用紙に 35 字×30 行の書式で執筆する。
- ・原稿のポイントは、10.5 ポイントとする。
- ・投稿論文は、A 論文と B 論文の二種類とする。両者は分量が異なるだけで内容に区別はない。
- ・原稿の分量は、次のとおり。投稿時の分量超過は認めない。
  - A 論文 16 ページ以内（投稿時、タイトルページ 1 ページと本文 14 ページ。修正稿の段階で 0.5 ページの追加を認める）
  - B 論文 8 ページ以内（投稿時、タイトル 1 ページと本文 6 ページ。修正稿の段階で 0.5 ページの追加を認める）
- ・名前等の個人情報は、タイトルページと本文のいずれにも記載しないこと。
- ・タイトルページには、タイトル、要旨（300 字程度）、キーワード（5 つ程度）を記す。本文には、図表、注、参考文献を含む。
- ・採用決定後には、英文タイトルと英文要旨（120 語程度）、英文キーワード（5 つ程度）を提出すること。
- ・注、および、参考文献は稿末に置くこと。脚注にはしない。
- ・注、および、参考文献のポイントは、本文と同じ 10.5 ポイントとする。
- ・図表の文字の大きさは 8 ポイントまでとする。極端に文字を小さくしないこと。
- ・謝辞は、投稿時には記載しないこと。ただし、謝辞を含む最終原稿の分量が 16 ページを超えてはいけない。
- ・句読点は、「、。」とする。
- ・見出しは、ポイントシステムとする。
  - ex) 1 学習者主体の日本語教育
    - 1.1 「学習者主体」の先行研究
      - 1.1.1 「学習者主体」の定義
- ・本文と例文の間は 1 行アキとする。例文が連続する場合は、例文と例文の間にアキは不要。

原稿フォーマット(doc ファイル)を当研究会のホームページよりダウンロードできるので、参照されたい。

〈[http://www.cocopb.com/NichiNichi/shippitsuyoko\\_files/format.doc](http://www.cocopb.com/NichiNichi/shippitsuyoko_files/format.doc)〉

## 2. 図表のキャプション

図表の出典には、原則として図表番号と図表タイトル=キャプションをつける。

図のキャプションは下に、表のキャプションは上につける。

出典は、下の ex) のキャプションのように挿入する。書名などは入れず、仮にホームページであっても参考文献にあげ、URL はキャプションには記載しない。

ex)

オーストラリア

イギリス

アメリカ

図 1 豪・英・米の日本語学習者数（国際日本語基金 2008）

表 1 学習者中心と教師中心の比較

学習者中心	教師中心
<ul style="list-style-type: none"><li>多様な学習者からのインプットを活かす授業</li><li>教師が学習者のニーズ分析をして目標設定</li><li>教師が学習者のインプットを活かして作った学習者が参加できるような活動を教師の指示で行なう</li><li>教師が学習者のインプットも取り入れた評価を行う</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>学習者は一様と言う前提の一斉授業</li><li>教師（あるいはシステム）が目標設定</li><li>教師が決めた活動を教師の指示で行う（ドリル、パターン練習）</li><li>教師が教師のやり方で評価</li></ul>

### 3. 参考文献

#### 3.1 本文

本文中の参考文献の表記は次の通りとする。

- ・地の文の場合は、著者名の後に丸カッコつきで発行年を示す。

ex)

田中（2007）では、……。

田中・山田（2008）によると……。

Tanaka & Yamada（2009）は、……。

- ・地の文でない場合（次の例を参照）は、著者名と発行年を半角スペースで区切り、丸カッコでくくる。

ex)

～である（田中・山田 2008）。

～である（田中 2007, 山田 2008）。

～である（Tanaka & Yamada 2009）。

～である（田中 2007, 2008; 山田 2008）。

引用先の該当ページ数を示す時は、次のようにする。

ex)

教師中心、教師主体を離れ、「学習者の植民地化」を乗り越えてこそ、学習者 1 人ひとりの自己実現を支援できる「学習者主体の日本語教育」が実現する。

（田中 2008: 38-39）

#### 3.2 巻末

和文論文と欧文論文で分けて挙げる。和文論文は 50 音順で、欧文論文はアルファベット順で並べる。タイトルとサブタイトルの間は、和文の場合はダーク『—』で、欧文の場合はコロン『: 』で区切る。

ex)

著者名（発行年）『タイトル—サブタイトル』出版社名.

Author (year) *Title: Subtitle*. Place: Publisher.

##### 3.2.1 単行本

###### a. 和文

単著)

田中太郎 (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラリアの実践研究』 ココ出版  
共著(2名/3名~))

田中太郎・山田花子 (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラリアの実践研究』  
ココ出版

田中太郎・山田花子・鈴木次郎 (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラリア  
の実践研究』 ココ出版

共著(人数が多いときは、次のようにしても可))

田中太郎・山田花子・鈴木次郎ほか (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラ  
リアの実践研究』 ココ出版

編著)

田中太郎 (編) (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラリアの実践研究』 ココ  
出版

共編(2名/3名~))

田中太郎・山田花子 (編) (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラリアの実践  
研究』 ココ出版

田中太郎・山田花子・鈴木次郎 (編) (2008) 『学習者主体の日本語教育—オーストラ  
リアの実践研究』 ココ出版

共編(人数が多いときは次のようにしても可)

田中太郎・山田花子・鈴木次郎ほか (編) (2008) 『学習者主体の日本語教育—オース  
トラリアの実践研究』 ココ出版

共著中の論文) ページ数を忘れずに

田中太郎 (2008) 「オーストラリアの日本語教育」田中太郎・山田花子 (編) 『学習者  
主体の日本語教育—オーストラリアの実践研究』 pp. 38-39. ココ出版

b. 欧文

単著) 発行地も忘れずに

Tanaka, T. (2008) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language  
Education Research and Practice in Australia*. London: Coco.

共著(2名/3名~))

Tanaka, T., & Yamada, M. H. (2008) *New Pedagogies for Learner Agency:  
Japanese Language Education Research and Practice in Australia*. London: Coco.

Tanaka, T., Yamada, M. H., & Suzuki, J. (2008) *New Pedagogies for Learner*

*Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia.*  
London: Coco.

共著(人数が多いときは、次のようにしても可))

Tanaka, T., Yamada, M. H., & Suzuki, J., et al. (2008) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia.* London: Coco.

編著)

Tanaka, T. (Ed.) (2008) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia.* London: Coco.

共編(2名/3名~))

Tanaka, T., & Yamada, M. H. (Eds.) (2008) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia.* London: Coco.

Tanaka, T., Yamada, M. H., & Suzuki, J. (Eds.) (2008) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia.* London: Coco.

共編(人数が多いときは、次のようにしても可))

Tanaka, T., Yamada, M. H., & Suzuki, J., et al. (Eds.) (2008) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia.* London: Coco.

共著中の論文)「In」を忘れずに。ページ数も明記すること。

Tanaka, T. (2008) The language situation in Australia. In T. Tanaka, & M. H. Yamada (Eds.) *New Pedagogies for Learner Agency: Japanese Language Education Research and Practice in Australia* (pp. 38-39). London: Coco.

### 3.2.2 定期刊行物

#### a. 和文

雑誌)

田中太郎 (2008) 「オーストラリアの日本語教育」『日本語／日本語教育』1 (3) , pp. 38-39.

学会誌／紀要)

田中太郎 (2008) 「オーストラリアの日本語教育」『日本語教育学研究』10, pp. 38-39.

日本語教育研究学会

b. 欧文

雑誌)

Tanaka, T. (2008) The Language Situation in Australia. *Language Planning*, 1(3), pp. 38-39.

3.2.3 Web

ネット公開の報告書／論文など)

国際日本語基金（2000）「1999年度 海外日本語学習者調査」  
<http://www.kokusainihongo.jp/rpt/1999/kaigai.html> （2000年11月1日参照）

Taro, T. (2000) *New pedagogies for learner agency*. *Nihongo Online Journal*, 3, 17-25. Retrieved May 7, 2001, from [http://www.coco.com/nol/2000/vol3/17\\_25.html](http://www.coco.com/nol/2000/vol3/17_25.html)